

会 議 録

会議の名称	令和6年度第2回川越市上下水道事業経営審議会
開催日時	令和6年8月23日(金) 午後1時58分 開会 ・ 午後3時35分 閉会
開催場所	川越市保健所 2階 大会議室
議長(会長) 氏名 *敬称略	議長:青木 亮(会長)
出席者(委員) 氏名(人数) *敬称略	青木亮(会長)、佐野勝正(副会長) 中野敏浩、村山博紀、吉野郁恵、柿田有一、片野広隆、桐野忠、小ノ澤哲也、山崎宏史、宮岡寛、新井康夫、山口陽子、野口典孝、菅間和範、横山三枝子、村上直、佐久間佳江 の各委員(18名)
欠席者(委員) 氏名(人数) *敬称略	なし
事務局職員 氏名(職名)	内田真(上下水道局長) 【財務課】 馬橋 洋(課長)、内田拓享(副課長) 【給水サービス課】 堀 尚吾(参事) 【事業計画課】 小林 武(上下水道局副局長兼課長) 【水道課】 新井賢一(参事) 【下水道課】 西村雅喜(課長) 【上下水道管理センター】 石戸祐仁(所長) 【総務企画課】 矢野雄一(上下水道局副局長兼課長)、佐藤俊一(副課長)、高田英明(副主幹)、高梨義久(主査)、石塚優(主査)児玉陽介(主査)
傍聴人(人数)	0名
会議次第	別紙のとおり

配 布 資 料	(事前に配布した資料) ○令和 6 年度第 2 回川越市上下水道事業経営審議会次第 ○川越市上下水道事業経営戦略 (令和 7 年度版) (案)【第 3 章～第 4 章】 (当日の配布資料) ○(令和 6 年度) 戦略改定に係るスケジュール (令和 6 年 8 月 2 3 日修正案) ○川越市上下水道事業経営戦略 (令和 7 年度版) (案)【第 3 章～第 4 章】の 4 5 頁
----------------	---

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	1 開会 【傍聴希望者の確認】 事務局より傍聴希望者はいない旨の報告がなされた。 施設老朽化について 副会長 帳簿価格の減価償却について、固定資産の管理がネックだと思われる。過去のことが分からないため、どこの自治体も苦労している。どの程度（減価償却）処理しているか等の把握状況を教えてほしい。 事務局 下水の平成15年度以降については、資産計上し、しかるべき減価償却費等を決算で出している。ただし平成14年度以前は特別会計でやっており、4条の観点をあまり持っていなかったため、当時の資産整理がどこまでできているかという懸念はある。水道については、法適用してから時間が経過しているので、昔から資産の把握をしており、固定資産台帳による管理ができていると思われる。 2 議題 （1）川越市上下水道事業経営戦略の改定（案）について 資料：川越市上下水道事業経営戦略改定（案）に基づき、第3章（案）について説明 副会長 前回の戦略では、当初の見積もりより実績が皆悪くなっている。市は原因を分析しているのか。分析をしているのであれば、その結果によっては、当初の見積もり（目標）が高すぎたのかもしれない。過年度の業績に対して分析を示す必要がある。 事務局 分析につきましては、進捗管理を行う中で分析している。今回示した事業環境は、過去の実績値から推計して将来を予測している。分析については2章でやっているところではあるので修正したものをお示しできるようにしたい。 副会長 それをしっかりと書いてください。書いていないと、（市は計画通りに）やってないという事になる。前回（の戦略）はこうだったから、今回の計画はここを修正したなどということを表記するべきである。 委 員 水需要予測について川越の水道水は大丈夫か。インターネットの情報で

	は飲料水のペットボトルの売り上げが２０年前と比べて３倍になっている。人口減少だけでなく（水道離れを）危機管理として考慮する必要があるのではないか。 また、ＰＦＡＳが水道水で検出されるという報道が出ている。川越市の水道水は問題ないのか。
事務局	ペットボトルを加味するかについて、過去が一番低い実績値令和５年を基にしているため、ペットボトルについては勘案していない。
会 長	現状でも川越市でペットボトルの水を使っている人がいるはずである。そういった意味では、事実上はその部分が考慮されていると言う事か。
事務局	そのとおりである。
事務局	ＰＦＡＳに関しては検査項目に挙げられている。市では令和３年からＰＦＡＳの検査をしており、毎年８月に管の末端で水道水を採水して安全を確認している。 現在のところ暫定基準値である５０ナノグラムを越える値は検出されておらずそれをホームページでも公表している。 他の水質基準についても超えているものはない。水道は安心してご使用いただける。
副会長	需要予測で、インバウンドの影響は考慮されているのか。
事務局	観光客の需要は分からないが、トイレの使用などもあると思うので、それらの数字を使って予測している。
委員	ＰＦＡＳの基準値はアメリカでは４ナノグラムであるのに日本は５０ナノグラムで違いがあるため、現時点でどのくらいの量が出ているのかをはっきり示してほしい。検査は年に１度だけか。
事務局	現在、年に１回、８月に管の末端で検査をしているが、検出可能な下限値は５ナノグラムとなっている。現状では、不検出であるため５ナノグラムに至っていないということになる。安心して使っていただけると考えている。
副会長	県水の検査結果はどうか。
事務局	同じく、５ナノグラム以下で不検出と聞いている。

委員	令和２年と令和４年で基本料金の減免をしていると思う。 過去１０年の平均を使うと１２０箇月分の４箇月で３％くらいが下振れすると思うがそれを使って予測する際に補正はしているのか。
事務局	料金収入に関しては供給単価を見ている。平成３０年度以降、令和２年度と令和４年度の２回以外は１４０円台であった。最新の令和５年度は、１４１円だったのでこちらを基準にするように補正をしている。
副会長	それでは、現行の水準（供給単価）をベースにしていると書いてください。
委員	４５頁の料金収入予測について「料金回収率が低い水準で推移・・・」とあるがレベルが伝わらない。「１００％を下回り収支均衡が・・・」とした方がいいのでは。４８頁の下水も同様である。
事務局	記述が不十分であったため、指摘のとおり対応する。
委員	４３頁の給水人口の予測を見ると、ほぼ全面的に落ちている。４４頁の有収水量の予測グラフは令和１３年が高いように見える。何かあるのか。また４５頁について令和２年と令和４年の減免を考慮しても平成３０からの５年間の収入の落ち方と令和６から令和１６年の落ち方が違う角度となっている。人口に単価を掛けているということだが、４８頁の下水道の予測も水道と同じカーブを描くと思っていたが、令和１３年で下げ止まるように見えるのは、計算間違いなのか他の理由があるのか教えてもらいたい。
事務局	人口、水量の予測に関しては直近１５年の中で見ているが、コロナの影響で相関関係が低いと判断した。 収入に関しては、過去の部分と予測の角度が違う原因は、コロナ期間の数字が使えないので令和元年と令和５年の数字を見たため角度が違っているのではないかとと思われるが確認させていただく。
委員	人口だけではなく、１人当たりの需要量のエッセンスを入れて予測しているということか。
事務局	そのとおりである。
会長	コロナ補正をしているとのことなので、それを記述してください。
事務局	そのように修正する。

会長	他になれば第4章を事務局からお願いします。
	資料：川越市上下水道事業経営戦略改定（案）に基づき、第4章（案）について説明
副会長	目標の立て方について意見させていただく。近年の大雨や地震は、想定外の事態が起きており非常に危険である。それを踏まえ市としてやらなければいけない投資案と諸般の事情を考慮した中で現実的にできる範囲の投資案を提示してもらい、議論した方がよい。 審議会では、1つのパターンだけを見せられても分からないのではないかと考える。次回以降で良いので資料を出してほしい。
事務局	資料の52頁、53頁に水道と下水のそれぞれの耐震化の目標があるが、この耐震化率の目標については、実績を積み上げていく数字になるが、目標としては高めの設定になっている。
副会長	口頭説明ではなく、資料として出してください。
事務局	次回までに用意させていただく。
委員	降雨への対応の話で、今の気象状況を考慮した浸水対策の計画の中で何ミリの降雨を想定しているというものがあると思う。一方で処理場の能力もあり、容量を大きくするわけにはいかないだろうし、一定以上の降雨の対応は、難しいのではないか。
委員	予測がつかない降雨で予測以上の水量が、不明水として出た場合、雨水処理は、公費だと説明があったが、やっぱり限界があると思う。そのような事情の場合に免責約款みたいなものは存在するのか。 不明水の量は年間降雨量に比例している。令和元年に東日本台風があった際は通常の年よりも2億円程度処理費用が増えた経緯がある。不明水対策も一定の効果はあったが、雨水だけでなく地下水の影響も大きいと分析している。
委員	51頁の投資に関する方向性の、施設の計画的な更新について、基幹施設の必要性の検討が必要なのではないか。例えば、浄水場が7箇所必要なのかどうか（施設の統廃合）という検討をし、それらを見直した上でそれでも料金改定が必要であるという理由が必要ではと考えている。 下水についても同様に施設の必要性について書かないといけないのかな

	という気がしている。
事務局	施設の必要性について県水の割合を減らしていく方向を検討しているところだが、浄水場の数についても今後考えていかないといけない。 スペックの無駄が多いのではという指摘は過去にもいただいている。現在は施設の統廃合について研究している段階である。川越は行政区域が広いのでバランスの取れた給水を行うための検討をしている。その中で浄水場を減らすだけではなく、管の口径を小さくすることも含めて検討している。
副会長	事業の方向性となるが、ここには、手段が書かれているように思う。最終的にどうしていくのかという事業目標が見えてこない。 局長に伺いたい。現状の課題をどういう風に考えているか、そして事業目標があると思うので、今後どのように展開していくのか、個人的な意見で結構なので聞かせていただきたい。 会計士は監査のときには、経営者に対して聞いていることなのでお願いしたい。
事務局	課題となっているのは、給水人口の減少や、節水機器の浸透に伴う使用料収入の減少である。配水している水道水のうち約85%は、県から買っている水であり、その費用が今後どうなっていくのかという点も踏まえて収支のバランスがどうなるのかが課題と考えている。 一方で上下水道施設の更新などもしっかりしていかないといけないため、経営の部分で難しいと感じている。今後は水道も下水も県に支払う費用が上がるという情報が出ている点も直近の懸念となるが、経営が分岐に立っている状況である。 その中で経営戦略の見直しにあたっては、給水人口の減少や施設の老朽化を課題として挙げている。局内でもダウンサイジング等も含めて話も出ている状況であり、そういったところについて経営戦略に取り入れられるところは記載していきたいと考えている。
副会長	経営戦略には課題解決の方向性を踏まえて今後どのように事業を展開していくか書いてほしい。
会長	今回の経営戦略改定については、5年経ったから、国の要請もあって残りの5年ではなく10年間ということで改定をする。それは上位計画の上下水道ビジョンを前提にした戦略の改定と言う事だと思われる。色々な課題と、5年目の改定という制約の中でやっていくという話で良いか。
事務局	そのようになる。

会長	白紙から書けるという状況ではなく、自由には書けない制約がある中で改定する必要があるということになるかと思う。
事務局	基本的には今ある計画の時点修正になるが、このあとやる投資・財政計画については、昨今の社会経済状況を反映させたうえで作っていきたいと考えている。
副会長	ビジョンにこだわっているが、ビジョンそのものを見直さなければいけないのではないか。ビジョンに囚われていると間違った方向に行ってしまうのではないか。ビジョン自体に問題があると感じた場合はどのように対応するつもりか。
事務局	必要な事をどれだけやるのか問うのがビジョンであり、そのために実際に必要な費用を踏まえた投資・財政計画を作るのが戦略だと考えている。今は時代の変化のスピードが速いので、今後シフトしていく必要が生じれば途中であってもビジョンの見直しをしていきたい。
委員	投資に關す方向性について、耐震化などの表現はR 2 経営戦略と変わっていない。5年前と変わっているところとして、南海トラフ、直下型地震がくるかもしれないという点、下水の問題であれば不明水、集中豪雨が多くなっているという点を加えて、だから資金が必要になるということが流れとして分かりやすいのではないかな。 また、重要施設配水管を優先して整備すると記載があるが、重要施設しかやらないのかと思う市民の方もいるのではないかと考えるがいかがかな。
事務局	文言について絶対ではないので検討させていただく。重要施設について優先はしているが、他の管はやらないわけではないので御理解いただきたい。
副会長	そもそも誰に経営戦略を見てもらいたいのか。少なくとも高校生くらいに理解できないと意味がない。見せる対象を意識しないと言葉の羅列で終わってしまう。
事務局	専門用語で作るわけにはいかないので、解説も含め平易な形でお伝えできるように工夫したい。
委員	P F A S が水道水から計測されているということがあるようなので、そのことも載せたらいいのではないかな。

事務局	経営戦略は事業経営における基本計画として位置づけられており、不検出となっているP F A Sに関する内容を記載する場所がなかなか難しいが、ご意見として改定作業の参考とさせていただく。
副会長	災害や非常時における対策のことを是非入れてほしい。事業にとって大事な計画となるので、別に作っているのであれば参照するような文言でも良いので入れてもらいたい。
事務局	災害対策、耐震化等、表現はいろいろあり、現状でも盛り込んでいるつもりだが、どのように記載するかは、現段階では検討させていただくと言えない。防災という観点においては、別に考えている。
副会長	上下水道の災害対策、防災対策としてそういうものがあるのであれば、それを示した方が良いのではないか。
会長	経営戦略は、大部分の市民の方は内容をよく知らないと思う。そのような方々に事業の課題とそれに対する対応策が必要だということを示す必要がある。今回分析の前提条件などの話があったと思うが、本日の意見の部分も入れてもらわないと伝わらないのではないか。見方によっては「コロナの影響で数字が悪くなったけど、実際は大丈夫なんだろう」となってしまふ。だからこのままの状況が続くとうなってしまうよということを分かっていただけのような内容となるように修正していただきたい。ほかに意見がなければ最後にその他について事務局からお願いします。
副会長	3 その他 次回以降のスケジュールについて事務局から説明
	4 閉会 閉会のことば